

伝道書3章 70人訳

- 1 すべてのものに時があり、天の下のあらゆることに季節がある。
- 2 生まれるのに時があり、死ぬのに時がある、植えるのに時があり、植えた物を引き抜くのに時がある。
- 3 殺すのに時があり、いやすのに時がある、引き倒すのに時があり、建てるのに時がある。
- 4 泣くのに時があり、笑うのに時がある、嘆くのに時があり、踊るのに時がある。
- 5 石を投げるのに時があり、石とともに集めるのに時がある、受入れるのに時があり、受け入れから切り捨てるのに時がある。
- 6 探すのに時があり、失うのに時がある、保つのに時があり、投げ捨てるのに時がある。
- 7 切るのに時があり、のこぎりをひくのに時がある、沈黙に時があり、話すのに時がある。
- 8 愛するのに時があり、憎むのに時がある、戦うのに時があり、平和に時がある。
- 9 人が働く彼の労働、この中に何の益があるのだろうか。
- 10 私は多くのトラブルを見た、それは、神が人の子が経験するべく与えたものである。
- 11 彼が作られたものは彼の時において美しい：彼はまたすべての世界を彼らの心に備え、神がなされるわざを始めから終わりに至るまで、探しえないようにした。
- 12 私は知っている、人は喜び、そして、彼の生涯においてよいことをなす以外に、良いことがないことを。
- 13 そして、食べ飲みをするそれぞれの人の場合、彼らの働きに良いことを見ることを、それは神のたまものである。
- 14 私は知っている、神がなされることは、それは永遠であることを。それに何かを加えること、またさし引くことは不可能である、それは神がなしたからであり、人は神の前に恐れるべきである。
- 15 今まであったものは今あり、そしてそうなるべく定められているものはすでにあり、神は過去にあったものを追い求め続ける。
- 16 そしてその上私は太陽の下で裁きの座に、不敬虔なものがいることを見た、そして、正義の場に、敬虔なものがいる。
- 17 それで私は心の中でいった、神は義なるものと不敬虔なものを裁くと：なぜなら全ての行いと働きに対して時があるからである。
- 18 私は心の中でいった、人の子の話すことに関して、神はそれを裁く、そして彼らが獣に過ぎないことを示す。

19 そして人の子に起きること、獣に起きることが、一つのことがともに彼らの上に起きる。
片方で死がおき、他方にも死がある。そして一つの息が全てにある。一体人が獣に上回っているものは何か？何もない。それで全ては空しい。

20 全てが一つの場所に行く。全てはちりから造られ、全てがちりに帰る。

21 誰が人の子の霊を、それが上にいくかどうかを見るか。そして獣の霊は、それが地の下に行くかどうかを見るのか。

22 それで私は、人は彼の働きを喜ぶ以外何も良いことがないのを見た。
これが彼の分け前である。何故なら、彼の後に何が来るのか誰が彼に見せることができるのか。